

## 革新、そして着実な革進へ



一般社団法人日本ホテル・レストランサービス技能協会  
会長 森本 昌憲（もりもと まさのり）

あけましておめでとうございます。

今年は辰年、戦後5回の辰年を遡ると、2012年の東京スカイツリー開業、山中伸弥氏のノーベル賞受賞、2000年はシドニーオリンピックで過去最多のメダルの獲得に沸き、1988年には世界最長の青函トンネルの開通、瀬戸大橋の開業そして1964年は最初の東京五輪、東海道新幹線開業など大きなプロジェクトが始まる年でした。努力した成果が実を結ぶような出来事が多く起こっています。辰年は陽の気が動いて万物が振動するので活力旺盛になって大きく成長し、形が整う年だと言われています。

まさにコロナ禍を経て昨年は内外のホテル観光需要が急激に回復し、今年は更に「量ではなく質を考える」ことを問い、提案する価値観の大きな変化と動きが活発になることと思います。HRSもこの流れの中で辰（龍）の如く果敢に挑戦し実を結ぶ年にしたいと思います。私達には先輩方の努力で築かれ、長い間積み上げてきた「サービス」と「マナー」に関する専門の知識・技能を有した人と企業そして承認校のネットワークという大きく、しっかりとしたプラットフォームがあります。事業の柱として、国家検定の「レストランサービス技能士」を始めとする「資格・検定事業」、その技能を実践に活かし技能の向上、職場・社会でのステップアップにつなぐ各種サービスコンクールを展開する「コンペティション事業」、そして「テーブルマナー講師認定事業」や幅広い知識、技能の教育研修としての「人材育成事業」などそれぞれ着実に実績を挙げています。特に今年からは大きく変化し続ける観光動向、市場の環境、社会を見据えて、このプラットフォームと事業が確立されているとは言え、それぞれの内容、やり方などにも躊躇なく必要な改革を加え（革新）て、新たな気持ちでより効果的な内容を築きながら着実に進めること（革進）に取り組み、全てにおいて変える、変わるという情熱と勇気が大切だと考えます。そして、業界企業、関連団体や承認校はじめ関連教育機関などとの連携を更に強くするため、直接的に率直な意見・情報の交換をする場や機会を積極的に増やし、お互いがそれぞれの事業や活動の輪を重ね、広げ、強くしていくことにより業界の発展、ひいては社会のホテル・観光業界への理解や関心がより高まり、深刻な「人材不足」を克服する活動につながることを願っています。HRSの宝はなんといっても技能の専門家としての「人材」でありその「情報」とあわせて「連携する力」です。

共に辰年に革進に努めましょう。

